

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	資料の調べ方
学年	第6学年
目標	単元目標：代表値としての平均値・最頻値・中央値や散らばり，度数分布について理解するとともに，目的に応じてそれらを用いて，統計的に考察したり表現したりすることができるようにする。 本時目標：プログラム作りを通して中央値の求め方についての理解を深める。
教材タイプ	ビジュアル（プログラミング）言語
使用教材	プログル（中央値）
環境	児童23人で23台の端末を使用
都道府県	徳島県
実施校	松茂町喜来小学校
学習活動の概要・児童の様子（プログラミングの活動を中心に記載ください。）	<ul style="list-style-type: none">○既習事項を確認する<ul style="list-style-type: none">・中央値の求め方○プログルの基本操作を復習する（平均値・最頻値で学習済み）<ul style="list-style-type: none">・ブロックのつなげ方，外し方，消し方・実行速度の変更方法○コンピュータにできることを確認する<ul style="list-style-type: none">・一人ずつ入れ替え・値の比較※ステージ7までは教師と一緒に順々に全員が同じ速度で進めた○グループでプログラムを考える<ul style="list-style-type: none">・子どもたち同士で話し合い，プログラムを組む際に，中央値の意味をお互いに確認しながらプログラムに反映させていた。・プログラムを組んで失敗して，もう一度組み直してという作業を繰り返し得意な児童も苦手な児童もプログラムを組むことができた。○振り返りをする<ul style="list-style-type: none">・中央値は値を順に並べ，真ん中の値を読み取ればよいことをまとめた。・資料の数が偶数のときはどのようなプログラムになるのだろうという疑問をもつ児童がいた。（平均値のプログラムの応用）
成果と課題	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none">・プログラムを組む過程で自然と児童が中央値の意味を確認し合う姿が見られた。・自分で計算するよりもプログラムを組んだ方が様々な場面に対応でき速く資料のデータを処理できるというよさに気付く児童がいた。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none">・ビジュアル言語の操作に難しさを感じる児童が多くいたため，日頃からプログラミング言語に触れる機会を設ける必要があるが，十分な時間を確保できない。・ステージ数が限られており，資料の数が偶数の場合を考える場面がなかった。